

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実(駐輪場の整備など)、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・知」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・本校の4つの生活信条「奉・人・物・礼」を実践する学校生活、教育活動を推進する。 ・進度より深度を基本に授業を展開し、進学、就職の実績を高める。 ・全国レベルの部活動や文科系部活動の更なる活性化を図る。	B	進路目標による5コースのクラス編成で多様なニーズに応えるべく特色のある教育活動を展開した。昨年度に引き続き、国公立大学への受験希望者は増加し、就職内定100%を今年度も達成した。崇城大学の協力を得た高大連携の取り組みも年々充実してきている。今後は基礎学力の定着により一層力を入れる。
	開かれた学校づくり	①学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ②保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや「文徳点描」の更なる充実を進める。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を高める。	B	毎月発行している「文徳点描」には保護者の方々からの温かい声を数多く頂いている。また、HPは毎日更新しており、学校行事・部活動・修学旅行なども迅速且つ適切な情報発信が出来る。今後はPTA・同窓会に加えて、地域との連携が課題である。
	教育環境の整備	①教育環境整備計画を推進する。 ②適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・体育館及び周辺整備を進める。 ・実習棟建設を進める。 ・老朽化した設備等の交換・修理を進める。	A	新体育館が26年3月に完成し、実習棟も27年3月に完成した。また、27年12月には老朽化のため解体した旧校舍跡地の緑化工事も終了、同時に400台収容可能な駐輪場も完成した。今後は有効活用を図っていきたい。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・研究授業・公開授業の実施、先進校視察、各種研修会等への積極的参加を図る。 ・各コースの特色を活かしたシラバスを作成し、すべての生徒の学力向上を目指した授業を展開する。	B	公開授業の実施により、質を重視しようという授業担当者の意識が高まった。校外における研修会へ参加したことで、見識を深め、校内での教科会等を通し、意識の統一を図ることができた。研究授業の回数を増やすことが今後の課題である。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・教務・進路・学年が連携し、自宅での学習時間調査を実施する。 ・担任と教科担当者の連携を密にし、「学習と生活の記録日誌」の利用などで個々への対応を図る。	B	学習状況アンケートを基に学習の記録を作成して学習習慣を把握した。面談等を通して、家庭学習時間の増加が見られた。週末課題・長期休暇課題をこまめに配布・回収することで最低限の学習習慣を定着させた。
	読書指導	⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。	・図書館教育、読書指導の充実を図る。 ・学期毎に読書強化週間を企画し、読書に向かう姿勢を身につけさせる。	C	図書室を活用し、読書の定着を図るには、学校全体で検討し、朝の読書タイムの創設など対策を講じる必要がある。毎朝7時30分に開館しており、授業開始前の読書を始めとし、図書室で読書する生徒は増加傾向にある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	①情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ②薬物乱用防止の啓発と運動の推進 ③服装指導の徹底 ④掃除の徹底 ⑤ルール遵守の徹底 ⑥生活信条の実践	・情報化社会の中、インターネットの被害、情報人権教育の徹底。フィルタリングの徹底を外部講師に依頼する。正しく生きる力を培う。 ・年度当初に適応指導を図り、学年に応じた生活習慣を確立させる。 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進を外部講師等に依頼し、正しい知識を身に着けさせる。	B	SNSの普及で情報ネットワークが生徒の身近なものになり、問題事案が発生している。本校でも懸念事案が起こった。服装指導では、スカート丈やネクタイをきりりと締めさせる指導が不十分であった。校内美化に雑巾がけを取り入れた点は評価できる。しかし細部に塵埃が残っている箇所がある。交通指導では、ルール・マナーを守り、他へ迷惑を掛けない指導を行った。各関係機関より講師を招き、講演を実施したことは評価できる。
進路指導	進路目標設定 進路情報提供	①進路に関する指導・支援を強める。 ②進路目標設定指導の充実を図る。 ③進路ガイダンス機能の充実を図る。 ④就職希望者の全員合格を継続する。 ⑤国公立大学への合格者を増やす。	・学年と連携し、生徒の進路意識を高め、学習意欲や計画的学習に取り組む姿勢に繋げる。 ・定期的な進路希望調査等を実施する。 ・LHRや総合的な学習の時間を活用し、進路学習を推進する。 ・進路講演会や講座の機会を設ける。 ・崇城大学での体験入学や他大学見学、インターシップに参加する等、将来設計の機会を与える。	B	各学年の状況に合わせた講演会やガイダンスを計画・実施し、その後、感想文など自分の意見をまとめることで、進路選択を考える機会を持つ事が出来た。学力向上を意図する授業や課外学習等、職員・生徒ともに不断の努力が見られた。しかし、多様なニーズを持つ個々の生徒に対する進路目標の早い段階での設定、計画的な学習の確立までには至っていない。個々の進路ガイダンスについての改善が求められる。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	①生徒一人ひとりが学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。	・生徒会の役割、各委員会の運営等を整理し、主体的に活動するため見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。	C	学校行事・生徒会行事はスムーズに実施されたが、役員選挙への立候補者が少ない。生徒の意識の高まりはあまり感じられない。委員会活動などを活性化するにはコース毎の終業時間のずれや部活動・課外授業など多様化した放課後の時間に活動時間や場をいかに確保できるかが今後の課題である。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各 部 及 び 理 工 科	総務部	円滑な学校行事の実施	①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。	・前年度の評価、反省を生かした企画。 ・ねらいや留意点の徹底 ・行事後の評価、反省。	B	前年度の反省を生かした企画、運営で、円滑な実施ができた。ねらいや留意点の徹底が望まれる。
		人権教育の推進	②人権教育の充実を図る。	・校内研修の充実。 ・校外研修への積極的参加。 ・LHRにおける指導の充実。	B	研修、集会等で人権意識が高揚した。クラス単位での人権尊重に対する話し合いの場を設けるとさらに効果的である。
		P T A等学校関係機関との連携	③P T A活動の充実を図る。	・学校との連携・調整。 ・教育活動への支援・協力体制の充実。 ・外部関係団体との連携。	A	保護者の学校行事への支援、協力体制は充実しており、関係諸団体との連携、情報交換も積極的であった。
		防災意識の高揚	④緊急事態に対し身の安全を図る。	・学校環境、立地条件を踏まえた対策を考える。	B	避難場所確保の関係で避難訓練の時期が遅くなった。来年度は早期実施を計画したい。
		記録・資料の保管	⑤学校関係記録・保管の整備を図る。	・60周年記念事業等を踏まえた資料の収集・保管。	B	記録、資料の保管はできているが、各部との連携、協力の下、記念行事への取り組みを充実したい。
	生徒指導部	学校生活の充実および社会性の涵養	①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	・欠席、遅刻や早退がない学校生活を目指す。 ・礼儀正しく、明るい笑顔の学校生活を目指す。 (明るい挨拶が飛び交う学校) ・全員の服装(容儀)が整っている学校を目指す。	B	各学年ともに皆勤率が高く評価できる。部活生を中心に元気よく挨拶する生徒はいるものの全般的には挨拶ができない生徒が増えている。制服の着こなしについては、女子のスカート丈、男女の髪指指導を継続的に行う必要がある。
			②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。	・人間の生命の尊厳と互いの人格を認め合える心を育てる。 ・校則および交通ルール・マナーを尊重する等、順法精神を育てる。	B	命を大切に講義会を開催し、命の大切さを訴えることができた。交通ルール・マナーを守る指導を通して遵法精神の涵養を図ってきたが、自己中心的な判断で行動する場面が散見された。
			③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。	・人生目標を設計させる。 ・社会に貢献できる喜びを体験させる。 ・学校行事や校内活動に積極的に参加させる。 ・ボランティア精神の育成を図る。	B	HR活動や進路講演会などを通して、各学年に見合った計画がなされていると思われる。体育大会、文化祭に自立的に関わる姿が見受けられた。1年、2年において地域清掃や老人ホームでのボランティア活動が実施され評価できる。
			④特別教育活動の推進を図る。	・積極的な部活動への参加を推進する。 ・地域と連携したボランティア活動を計画する。 ・生徒会活動、委員会活動を通して愛校心、地域愛、所属意識を育てる。	B	体育系部活動は加入率が減少傾向にあるが各部とも好成績をあげている。文化系部活動を充実させることが今後の課題である。生徒会役員の生徒に、本校を良くしていこうとする熱意を感じた。今後は計画立案およびけん引力を期待する。
	保健部	健康教育の推進 環境美化の推進	①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。	・校医検診を始めとする各検査結果の適切な指導処置を図る。 ・保健衛生の啓発とその定着	A	生徒、教職員共に健康維持に高い意識を持って日々の生活を送っている。文化祭等を利用して、啓発活動を行っている。今後はその定着を図る。
			②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。	・学校内外での活動(体育行事や学校行事)での適切な指導を行う。 ・安全・衛生的な環境整備の確立や安全点検の実施を行う。 ・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。	A	全クラスで担任が毎朝健康観察を実施している。その記録を残し、感染症対策や事前指導に生かしている。様々な課題を有する生徒や保護者への対応には、SSWとの定期的な会合を持ち、連絡を密にすることでより細やかな対応ができている。
			③学校内外の環境美化推進及び奉仕精神の育成を図る。	・全職員による清掃指導の強化を図る。 ・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。	B	全体指導に加え、今後は部室等を含めた校内全体の美化への指導を徹底すると共に奉仕精神、美化意識の向上への取り組みも必要である。
	図書部	読書習慣の定着 図書館利用の促進	①読書意欲を高める図書館教育を推進する。	・生徒が利用しやすい環境整備と蔵書の充実を図る。 ・読書週間等の企画や図書館便り等での読書推進活動を強化する。	B	読書に関するアンケートの結果、生徒の7割以上が図書室に行った事があると答えている。今年度、通路に掲示板を設置し、新刊の案内や、読書頻度の多い本などを掲示し、読書の意欲を高めている。
			②情報センターとしての機能充実を図る。	・教科関係資料や各種文献、蔵書、書庫等の整理とデータ化を進める。	B	各教科に図書購入予算を活用するように要望している。(例 数学科:「数学の技巧的な解き方」、理工科:「トコトン優しい溶接の本」など)例年『金峰』(第55号)を発刊し、生徒の読書感想文・新聞投稿掲載文などを掲載している。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	教務部	学力向上への意欲を育てる	①学校行事が行われる中、授業時数の確保を図る。	・短縮授業、振替授業等で自習時間の減少を図る。 ・教育課程の適宜改善を図る。	B	各学校行事に対しては特別時間割によって、授業時間の確保は概ねできた。時間割変更などの連絡を担当者やクラスヘルプスに行なうことを徹底する。コースの特徴を生かすため、次年度教育課程の変更を行った。
		分かる授業への取組	②生徒の学習意欲を喚起するよう、一層の授業改善と評価の充実を図る。	・研究授業等を実践し、指導方法の工夫・改善を図る。 ・教科主任会や関係部担当者会等を受け、生徒の学力向上対策を進める。 ・考査等への取組を深め、学習意欲向上を進める。	C	科目によっては進路別、または習熟度別に分割授業を行い、内容理解を深めた。学習意欲が湧かない生徒がまだまだ多い。そういう生徒に対し、導入の部分で生徒を引き付ける工夫をしたり、題材等の選定や準備に時間をかける必要があると感じられた。
		基礎学力の定着	③基礎基本の着実な定着を図ると共に、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成する。	・自宅での学習時間調査等を実施し、生徒個々への適切な指導を進める。 ・3年間を見通した授業計画及び授業内容の精選を図る。	B	各学年で検討や対策がよく図られた。ガイダンスや講演会などによる進路学習から学習意欲の向上を促した。本校はコースが細分化されているため、それぞれに充実感を与えられるよう徹底していく。
		教務規定の周知徹底	④教務関係書類等を見直し、効率的な事務処理を推進する。	・諸処理が正確、迅速、適切なものとなる工夫・改善を図る。 ・教務規定や事務処理等について全職員に周知・徹底を図る。	A	教務書類においては、一部更新されたものも含め、円滑に処理できた。配布用行事予定表などに工夫を凝らし分かり易くすることが今後の課題である。年度当初、まだ学校に慣れていない1年生に認識が必要な項目がきちんと連絡できた。
	進路指導部	多様なニーズを持つ一人ひとりの生徒に応じた進路指導の推進	①多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。	・進路情報的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。 ・進路講演会や出前授業を実施する。 ・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。 ・外部教育力の活用（職員研修）を図る。 ・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。	B	夏休みに二者面談、更に保護者を交えた三者面談を実施し進路意識の啓発に励んだ。特に3年生にはきめ細かい指導を行った。面談は希望制でなく、全員との面談ができるように改善したい。学年会や教科会では共通理解は深まったが、学校全体での情報の共有や活用の域までに至っていない。全職員への情報提供を積極的に行っていききたい。新学習指導要領へ向け、外部講師の研修を取り入れたい。
		進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立	②進路希望実現のための学力充実を図る。	・授業第一主義と自宅での学習時間の確保（教務と連携） ・学年部と連携した進路指導体制を確立する。 ・課外や模試等の見える課題の共有化を図る。 ・学年や教科間連携による小論文指導、面接指導等の充実を図る。	B	学力の定着を図る為に、授業の充実を柱に補習や課外授業等を計画的に行った。個別指導や添削指導も活発であった。自学に取り組む姿勢や受験生としての意識づけの為に学習合宿を行った。夜の自習室を活用する生徒が増加した。模擬試験等では、事前指導や事後の検討がほとんどなされていない。現状を分析した結果を全職員に提供するようにしたい。
		進路実現に繋がるキャリア教育の実践	③職業観の育成、職場体験の機会を設ける。	・職場見学会やインターシップを実施する。 ・職業講話や出張講義、職場体験の機会活用を進める。 ・LHRの効果的活用、総合的な学習の時間との連携強化を図る。 ・教科活動を通して職業観を育成する。	A	各分野における地道なキャリア教育の指導が、本人の希望に添った職業の選択に繋がった。就職内定率は今年度も100%が達成し、進路保障の責任を果たすことができた。求人は増加傾向にあるが、今後ミスマッチが起きないように事前指導に注力したい。また最低限必要な基礎学力の定着に努めていかなければならない。
	入試広報部	本校教育活動を中心とした情報の発信	①学校案内・看板ポスター等の作成。	・理解し易い説明内容・資料の精選、職員への周知を図る。	A	学校案内は学校全体の情報をわかりやすく網羅しており、ここ数年は同様の形式で作成している。
			②ホームページ等による情報発信。	・ホームページによる教育活動の適切な発信と更新を図る。 ・部活動状況や成績等のブログを拡大する。	B	ホームページは平日には毎日更新しており、アクセス数が多くなっている。「文徳ing」では部活動成績を紹介しているが、各部の部活動ブログでの発信ができていない部分がある。それが今後の課題である。
			③各説明会において本校の説明を充実させる。	・各説明会の担当者が同じ内容を説明できるように説明原稿を作成する。	A	担当者が教育状況を分かり易く説明しているため、本校への評価が高まり、受験者数が他私立高校より多くなっている。
	事務部	教育環境の整備	①校内を積極的に緑化し、開放感のある空間を作ると共に緑比率の向上に努める。	・校庭の一角に緑化整備事業（庭園風の緑地）を計画・着工する。芝生等が施された広場やベンチを設置し、周囲にはツツジ・サクラなどの木を植え込み、生徒たちを屋外へ導き心の癒しとなるような環境を提供する。また、斜面を利用するため、安全面を考慮し、暗渠排水、表面排水等と一体の工事を行う。 ・不足している駐輪場の計画・整備事業を行う。	A	「エコキャンパス推進事業」で計画・着工した緑化整備工事は年度内に完成した。「桜」や「山法師」を植樹し、周囲に芝生を敷いた庭園は生徒達が休憩時間や放課後に寛げるスペース「憩いの広場」として緑に親しみ、触れ合い、健康づくりの場として利用する。また、本来の目的である、緑化によるCO ₂ 吸収等の効果に資するものと確信している。今後は課題は緑地を保全するための植栽樹種別の定期的生育点検や、効率的・効果的な維持管理整備方法、またCO ₂ に係る調査方法等の考察が必要である。駐輪場は、400台程度の駐輪場を設置し自転車通学生全員分の整備が完了した。
			②不足している施設設備の整備。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	理工科	工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する	①専門教科で学んだ知識・技能を活かしてモノづくりや資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保証する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や各授業において基礎から分かりやすい授業を行い、生徒の興味・関心を高め、学習内容を理解させる。 ・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで意識を高め達成感を体得し、更に上級の資格に挑戦する教育活動を進める。 ・国家資格取得については放課後などの時間を有効に活用し合格率を上げる。 	B	各専攻毎に国家資格取得を目標に専門教科への興味関心を高めた。放課後の学習会へも積極的に参加するなど学習意欲が向上し、合格率も向上した。モノづくりに関しては、実習の実施時間不足のため、あと一步踏み込んだものが出来なかった。実習棟が完成し、3Dプリンターなどの機材が充実し、生徒の多様な興味・関心への対応が可能となった。
			②卒業後の進路選択と自らの人生設計に必要な力を育成するための「キャリア教育」「職業教育」を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに進路別ガイダンスを実施し、一人一人の人生設計の一助とする。 ・インターンシップや企業講話などを実施し、職業観を育成する。 ・崇城大学での体験講座等を活用し、専門教育の学びの場を拡げる。 		

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

4 学校関係評価

※生徒による評価（アンケートから）は、次のようなものであった。

- | | | | |
|-------------------------|---------|-----|--|
| (1) 学校が楽しいですか。 | | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | 89% | |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | 11% | |
| (2) 友達と一緒に活動するのが楽しいですか。 | | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | の肯定的な回答 | 95% | |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | の否定的な回答 | 5% | |
| (3) 授業が分かりますか。 | | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | の肯定的な回答 | 77% | |
| ・あまり分からない・分からない | の否定的な回答 | 23% | |

上記3項目の中で、肯定的な回答をしている生徒については、その気持ちが継続するようにしていかなければならない。否定的な回答をした生徒については授業、HR、部活動、学校行事、友人関係等の中で何らかの楽しさ、達成感が感じられるようにするために、担任、授業担任、部活動顧問を始めとして全職員が関わっていかなければならない。特に否定的な回答が23%ある授業の分かり易さについては、総括表の中の学力向上、教務部の「成果と課題」にある事項を全職員が共有し、課題を達成していき、肯定的な意見が90%を超えるようにする必要がある。

※本校評議員による評価

- (1) 基本的な生活習慣（規則、服装、挨拶、礼儀）については、規律正しい校風であると感じる。
- (2) 生徒がそれぞれの進路目標（自己実現）に向けて努力できるよう、生徒の適性や進路希望に応じた多様な指導ができていていると思う。
- (3) 入学志願者が多いのは、本校の教育活動に関する情報が地域・家庭に伝わり、県内全域から評価されているからだと感じる。
- (4) 自転車通学生が多いため、交通安全教育や交通マナーの指導を更に強化してほしい。
- (5) 女子生徒が増加してきているので、女子生徒向けの生活環境整備が必要になってくるのではないかと感じる。
- (6) 緑化整備および駐輪場工事が完成し、更に素晴らしい教育環境が整った。今後も機能性・安全性等を考慮したより良い環境づくりを推進してほしい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

学校生活を通して、生活信条の実践を呼びかけ、心豊かで社会に貢献できる人材の育成に尽力した。各学年ともに皆勤率が高まり、学校生活に充実感を覚える生徒の増加が認められる。その反面、自ら積極的に挨拶の声を上げる生徒は確実に減少傾向にある。集団活動が苦手な生徒の増加と相俟って、情報ネットワーク(SNS)の利用者も増加する今日、健全な人間関係を構築するための指導が益々望まれる。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

進路意識の高揚による学習意欲の高まりという構図を念頭に、生徒の進路目標に対応した5つのコースを設け、個々の生徒に対して学習指導を行った。今後は益々、学習意欲の低い生徒の基礎学力の定着が重要な課題となる。全ての生徒が、将来の「基礎学力テスト」に対応できるよう、学力の3要素といわれる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を身につける指導の工夫が望まれる。地道な広報活動により、本校への受験生は今年度も増加した。

(3) 教育環境の整備

教育環境の整備については、26年3月の新体育館完成に続き、27年3月に理工科実習棟が完成した。また、今年度は、老朽化した旧校舎の解体もすべて完了し、27年12月には、その跡地に緑化工事を施して生徒の憩いの広場を設置、現在広場名を生徒に募集している状況である。また、広場設置と時を同じくして、400台収容可能な駐輪場も完成した。確実に教育環境は充実している。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

学校行事・学年集会などを通して、各種講演会を実施し、生徒の心の成長を促すとともに、自主性の高揚を意図した研修会も企画、多くの生徒から有意であった旨の感想を得た。アンケートにおいて「友達と一緒に活動するのが楽しい」という生徒が全校生徒の95%を締める状況は評価に値する。部活動では体育部17・文化部4・同好会7と活動の場は豊富である。体育部17の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がりを見せている。生徒会活動においては、生徒会役員など一部の積極的な活躍はあるが、多くの生徒が企画運営に参加できるような全体的な組織作りが今後の課題である。

6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 生徒指導については、基本的な生活習慣が身につくにつれ、指導を受ける生徒は減少している。遵法精神や協調心、ボランティアへの参加など、社会性を育てる教育を強化していかなければならない。18歳以上に選挙権が与えられることをきっかけとして、高校を卒業したら大人であるという自覚を持たせることに繋げたい。
- (2) 学習指導や進路指導に関しては、早い段階で進路目標が決められない生徒が多いため、計画性や主体性の伴った学習習慣はまだ十分とは言えない。本校には多くの特色あるコースがあり、多様なニーズを持った生徒が存在することから、個に応じた学習指導計画を綿密に立てる必要がある。日常の学習指導と併せ、生徒の実態に即した学習指導と進路指導を行っていく必要がある。
- (3) 教育環境については、耐震構造の校舎、体育館、実習棟が完成した。また自転車駐輪場、緑化工事、憩いの広場も完成し、申し分ない教育環境となった。今後、それらを生かして生徒が夢を叶えて、学校が発展していくはずである。
- (4) 生徒活動の活性化については、アンケートからもわかるように多くの生徒が毎日喜んで登校している。今後も生徒全員が夢を持ち、目標を叶えるために毎日充実した学校生活を送る学校を目指さなければならない。